

## NO. 2320 【醍醐寺～蟬丸神社】

2012年6月24日（日）曇

参加者：藤本（L）、岡本（記）

### <行程・時間>

9：35 地下鉄醍醐駅→9：45 醍醐寺→10：00 上醍醐入山口→10：50 開山堂（11：00 発）→11：15 横嶺峠→11：55 京都国際CC→12：10 高压線下（昼食12：30 発）→12：40 東海自然歩道出合→13：30 音羽山山頂（14：15 発）→15：15 蟬丸神社

8時30分、集合場所の醍醐駅には誰もいない。1時間後の9時半過ぎに漸く2人合流し、出発。マンション群を通り抜け真っ直ぐ行くとやがて寺らしきものが見えてくる。醍醐寺だ。前をカラフルな登山服のグループが進んでいく。何となく寺の雰囲気合わない。本殿の裏に回り女人堂の方へ行く。上醍醐への登山道がある、が、その前の柵に入山料600円の立て札がある。やむなく600円を払い上醍醐への参拝道を登って行く。何故か藤本さんはどんどん先に登って行き、徐々に姿が見えなくなる。

国宝の薬師堂まで来たが藤本さんはいない。作業をしている人に横嶺峠への道を確認すると、事故を起こし易いところなので、一つ一つの地蔵毎に拝みながら行かないと事故に遭うと諭される。近くの地蔵にちょこっと頭を下げて進むと、後から作業の人がそんな拝み方では駄目だと怒鳴っている。適当にして先を急ぐ。山頂の上醍醐まで来ても藤本さんはいない。探し回るものが見つからないので今度は横嶺峠への道を探すが見つからない。何人かの人に道を尋ねているうちに下から藤本さんが登ってくる。醍醐水のところで待っていたようだが、自分が通り過ぎて行ったようだ。

横嶺峠への道を探す、よく分からない。聞くと、ロープの柵で進入禁止にしている場所の脇に横嶺峠の方向への道があるようだ。入山料対策か。脇からその道に入り暫く行くと横嶺峠だ。少し起伏はあるが、何の危険も感じられない道だ。地蔵に拝まなくとも事故に遭いそうにもない。先程の作業員も寺の回し者か。

横嶺峠から国際ゴルフ場へはアスファルトで舗装された車道を進む。山道と違い何となく疲れる道だが、日陰で、時折涼しげな風もあり救われる。ゴルフ場の脇を進んでいくとやがて登山道への柵が見えてくる。柵をくぐり抜け、暫く登ると高压線のある尾根にでる。そこで昼食を取る。

そこからは殆ど尾根筋の一本道だ。暫くすると石山寺方面からの東海自然歩道と合流する。ここからは目的地の逢坂の関まで自然歩道が続く。この辺りにくると結構登山客と出会う。どうやら石山寺から蟬丸神社がハイキングコースになっているようだ。少し起伏のある登山道を行くと、やがて少し広い場所にでる。左手に開けた所があり、京都市や大津市を一望できる。ここが音羽山の山頂だ。曇で少し霞んでいるが、風もあり気持ちの良い所だ。時間もあるのでここで少しゆっくりする。

音羽山から先は緩い下りが続く。どんどん行くと、気がつけばそこが逢坂の関だ。その先に蟬丸神社がある。神社へは寄らず正面の階段だけ見て通り過ぎ、そのまま京阪大谷駅にゴールインする。

以上